

委員会等の会議録

1 会議名	第3回愛南町学校統廃合検討委員会	
2 議題	(1) 学校の適正規模(案)について (2) 保護者アンケート(案)について (2) その他	
3 開催日時	令和3年1月28日(木) 19時00分から20時00分まで	
4 開催場所	愛南町役場本庁3階 大会議室	
5 傍聴者数	※非公開会議	
出席者		
6 委員	出席 18名 欠席 2名	
7 担当所属	所属名	学校教育課
	担当職員 (職・氏名)	教育長 中村 維伯 課長 岩井 正一 課長補佐 近田 幸信 係長 本多 大輔
8 その他の 出席者	所属名	
	出席職員 (職・氏名)	
議事内容(次ページから)		

発言者	発言内容
近田課長補佐	定刻となりましたので、ただ今から第3回愛南町学校統廃合検討委員会を開会します。
委員長	(開会あいさつ)
近田課長補佐	(本日の資料の確認) それでは、早速協議事項に移ります。ここからの議事進行につきましては、藤田委員長にお願いします。
委員長	それでは、議題の「(1) 学校の適正規模(案)」について、岩井学校教育課長から説明してください。
岩井課長	それでは、最初に学校の適正規模に関しまして、皆さんで御協議いただいて、決めていただけたらと思いますので、よろしくお願いします。資料1の1と2については、前々回、前回と変わらず、これまで説明してきたとおりでございます。3については、校長会から意見をいただいたものを載せたのですが、この検討委員会の中で適正規模を決めていただくために事務局案として示させていただいています。小学校は、やはり2学級以上の6学年で12学級以上が望ましいと事務局では考えています。そして「下限の学校規模」という表現にさせていただきましたが、1学年当たり10人として、60人程度の学校が下限になるのではないかと考えています。やはり、複式学級の解消はしていかなければならないと考えています。中学校については、望ましい学校規模として2学級の3学年ということで6学級、人数はそこにあるとおりです。(中学校の)下限の学校規模は、校長会の意見では1学年当たり10人以上で30人ほどと提案していただきましたが、中学校の学校活動をするためには、せめて1学年当たり20人は必要ではないかと考えています。できれば中学校も各学年に2学級又はそれ以上あると、活発な学校生活が送れると考えています。以上を提案とさせていただいて、皆さんのいろいろな御意見をいただけたらと思います。
委員長	説明が終わりました。ここままで御意見や御質問などはありませんでしょうか。
委員	3は「学校統廃合検討委員会が示す適正規模等(案)」となって

<p>中村教育長</p>	<p>いますが、ほかにも案はあるのですか。私も地元のものを調べてきていまして、前回の会議で意見があったように保護者の意見が大事だということも理解できるのですが、もう少し何か考えることができないのかなという思いがしています。それに対して、教育委員会はどのようにお考えですか。</p> <p>貴重な御質問ありがとうございます。地域として、今まで統廃合を繰り返してきた中で、できるだけ何とか(存続させたい)という気持ちがあることは、学校運営協議会にお話を聞きに行かせていただいた中で十分理解しています。しかし、学校の教育活動をしていく上で、「やはりこれぐらいの人数で切磋琢磨をしていくことが子供たちの将来にとって良いのではないか」という意見を学校の先生方や様々なところにお聞きして、それを踏まえて下限の学校規模を提示しています。「おおよそ」という表現ですので、ぴったりこの人数(が学校存続の下限)というわけではないということですが、学校教育活動上はこれぐらいの規模は必要ではないかということです。例えば中学校でしたら、当然部活動の問題が出てきますので、あまり少ない人数になると部活動の選択肢がなくなります。例えば一つの部活動だけになるとしても、チーム競技に関してはなかなかできなくなるなど、そういった状況も発生しますので、ベースとしてここ(適正規模)をまず作らせていただいて、この案が皆さんに認めていただけたら、次の段階として個々の学校の統廃合計画を策定していく予定です。その中で、例えばあまりにも通学時間がかかり過ぎるなど様々な条件は必ず出てきますので、そこを加味したときには、「適正規模の条件はあるが、やはり配慮が必要ではないか。最終的な統廃合の計画として、ここの計画は変えていこうか」など、そういった議論の中で改めてさせていただきたいと思っています。今回のこの統廃合検討委員会の1番大きな役目としては、教育委員会に答申をいただくことです。この検討委員会自体が地域に説明に出向いたりいろいろなところに説得に回ったりなど、そういう組織ではありません。教育委員会に出していただく答申について、当然教育委員会や町長部局との話し合いもさせていただいて、最終的には愛南町教育委員会が計画を決めていきます。その際には、例えば保護者の意見を再度お伺いしたり、場合によっては地域の方と何らかの形で意見のやり取りをさせていただくということも検討していこうと思っていますので、まずは1番最初のベースとなるこの適正</p>
--------------	---

	<p>規模の考え方について決めていただきたいと思います。この「望ましい学校規模」というものは、特にクラス替えができるということは実は非常に大きな要素で、これが理想ではあるのですが、それを愛南町にそのまま当てはめると厳しいところもあります。ただ、やはり子供たちの将来の成長などを考える中で、下限でこれくらいは必要ではないかという基準について今回のこの案で皆さんに意見をいただいて、最終的に御了承いただければよいとしたら、これをベースにさせていただきたいと考えていますので、第二案が別にあるということではありません。</p>
<p>岩井課長</p>	<p>教育長からも今後のことについて触れましたが、資料の裏面の4～6のところにもいろいろな要素をあげていますので、いろいろと議論をしていただいて、方向性を考えていっていただくことになろうかと考えています。今回は考え方をまず一つ、子供の教育環境にとってはこれくらいが望ましいのだというところをこの検討委員会の中で決めていただけたらと考えています。</p>
<p>委員長</p>	<p>その他御意見はありませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>数については意見はありませんが、「下限の学校規模」の「おおよそ60人(学年10人)」のところを「おおよそ60人(学年10人程度)」としていただいて、10人程度掛ける6学年で60人、小学校の12学級や中学校の6学級についても「各学年2学級で考えているからだ」というような説明をつけていただけると、一般の方が理解しやすいかと思います。</p>
<p>岩井課長</p>	<p>承知しました。</p>
<p>委員長</p>	<p>そのほかございませんか。</p>
<p>委員</p>	<p>資料の1のところでの表記が「おおむね」で3のところでは「おおよそ」ですが、調べたら「おおむね」の方がアバウト差が大きいそうです。「おおよそ」にすると端数を四捨五入したというようなニュアンスになるようで、数字としては厳正になります。アバウト感は広い方が良いと思うので、「おおむね」という表現にした方が良いと思います。</p>

中村教育長	<p>「おおむね」という言葉自体には、きちっとした定義まではないのですけれど、一般的には8割から9割くらいは「おおむね」という言い方に含まれることが通例として用いられるようです。あくまで言葉のニュアンスですけれど、例えば8人ですと基本的には複式学級にならないレベルだということで、表現を「おおむね」とさせていただきます。委員長さん、今言われた3のところについて「おおよそ」のところを「おおむね」と書き換えて良いか(皆さんに)意見を聴いていただけますか。</p>
委員長	<p>今の「おおよそ」を「おおむね」と書き換えてよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>「下限の学校規模」ですが、現在、60人に満たない学校がほとんどというところで、この人数を下回るようであれば、必ず何か統廃合のアクションを起こすという意味での下限の人数としての設定なのか、単にこの学校規模が望ましいという目安としての位置付けだけなのか、その辺りはどうなのですか。</p>
岩井課長	<p>〇〇委員が言われたことの後者の方になります。「学校活動を十分にするためにはこれぐらいの人数が必要だ」というところの考え方をしておくためです。先ほども申しましたように、(資料の)裏面に書いてあるようなことがいろいろ加わっていったら、皆さんの中で各地域の学校の具体的な統廃合が決まっていく上では、この目安となる学校規模に少しでも近づけるように事が進められるかどうかということも合わせて考えていくことになるかと思えます。この(学校規模の)人数を下回っているから、即(統廃合を)という意味ではないので、御理解いただきたいと思えます。</p>
委員	<p>最終的に統廃合を進めていくというときに、何かしらの目安など統廃合に向かって進む基準というようなものが、やはり必要ではないかと思えます。そのためにこの下限の人数があるのかなと思ったのですが、そうではないということであれば、やはり「こういう状況のときにはもう統廃合に向けて何かアクションを起こす」というところは決めていかないといけないのではないかなと思えます</p>
岩井課長	<p>承知しました。仮に計画を作っていくことになれば、そうい</p>

	<p>うことが盛り込まれていくと思います。それは今後の作業になるだろうと事務局側では考えています。</p>
委員長	<p>特に意見がなければ、この「学校の適正規模」については、このような内容で決めさせていただいてよろしいでしょうか。</p>
委員全員	<p>(了承)</p>
委員長	<p>ありがとうございます。続きまして、議題の「(2) 保護者アンケート(案)」について説明してください。</p>
岩井課長	<p>それでは、資料2について説明させていただきます。前回、その前の回でもあったかと思いますが、保護者の意見をしっかり聞くべきだという御意見をいただきました。それに従って、アンケートを来月行いたいと思いますので、その内容の御提案です。アンケートをお願いする範囲は、就学前の保育所と幼稚園に通われているお子さんの保護者と小中学校の保護者全てに各所属を通じて配布・集計していただくという形を考えています。まずは「就学前の保護者用のアンケート」を御覧ください。「Q1」のところには、所属する保育所等の名称を書いています。「Q2」では、居住する校区の学校規模での教育について、該当するものを選んでいただきます。「現状のままで良い」「改善が必要である」「大きな改革が必要である」の3択にしています。「Q3」では、学校の統合について該当するものに丸をつけていただきます。「賛成である」「やむを得ない」「反対である」の3択から選ぶようにしています。「Q4」では、Q3で「賛成」又は「やむを得ない」に丸をつけた方に対し、その理由として当てはまるものを三つまで選んでいただき、「その他」を選ぶ場合は理由があれば開いていただきます。「Q5」では、Q3で「反対」に丸をつけた方について。その理由を選んでいただきます。なお、裏面の方には自由意見を書いていただくようにしています。次に小中学生の保護者分ですが、「Q1」は学校名、「Q2」は現在お子さんが通っている学校規模で考えて選んでいただくようにしています。それ以降については、就学前の分と同様です。アンケートの回答についてですが、例えば小学校に兄弟姉妹が2、3人いるということであれば、回答は1枚としています。小中学校にそれぞれお子さんがいる場合は、小学校分で1枚、中学校分で1枚の回答をお願いし、就学前(のお子さん)についても</p>

	<p>同様です。兄弟姉妹であっても年代や所属する学校等で保護者の考え方は違うであろうと考えまして、そのような形でアンケートを行おうと考えています。できれば2月上旬に各所属や学校等を通じて保護者に配布し、回収したいと考えています。</p> <p>それから、今の保護者の方々はスマートフォンを持ってる方がかなり多いので、QRコードをつけることでそこから回答していただくことも検討しています。今、それが技術的に可能かどうかについて確認しています。なお、単純集計にはなるかと思いますが、次回の検討委員会の中で(アンケート結果を)資料としてお示ししたいと考えています。</p>
委員長	<p>説明が終わりました。御意見や御質問などありませんでしょうか。</p>
委員	<p>小中学校の保護者のアンケートの結果は、小学校と中学校、別で集計するのですか。それとも一緒にするのですか。</p>
岩井課長	<p>所属ごとで集計して、それを合計します。小学校の合計、中学校の合計、就学前の合計というような形で表わせられると考えています。また、集計方法についてもどういものが客観的でふさわしいかを検討しています。</p>
委員	<p>〇〇小学校と〇〇中学校のように、小学校と中学校が同じ名前の学校があります。「学校名を書いてください」とすると、「〇〇」だけを書かれたらどちらか分からないので、分かるような書き方にした方が良くないかと思います。</p>
岩井課長	<p>ありがとうございます。回収するときは各学校から届くようになりますので、名前が入っていなかったり「〇〇」としか書いてなかったりした場合には、こちらで対応したいと思っています。</p>
委員	<p>QRコードでの回答分も各学校で集計するのですか。</p>
岩井課長	<p>集計はこちらで行います。取りまとめてもらったものを学校から提出してもらいます。</p>
委員	<p>QRコードでの回答分は、学校に連絡が行くようになるのです</p>

	か。
岩井課長	もしQRコード(での回答)も取り入れることになれば、案内文書の中にQRコードを貼り付けたものを印刷して持って帰っていただくというように考えています。
委員	分かりました。
中村教育長	これについては、例えば括弧の中の末尾に「小学校」又は「中学校」と記載していたら間違いないと思いますので、その辺を含めて検討させていただきます。
委員	保護者からアンケートを取るのとは分かるのですが、児童生徒の気持ちも知りたいなと思います。私個人の考えですが、子供たちがどのように考えているのか、児童生徒にもアンケートを取ってみるのどうでしょうか。
岩井課長	最初の回の際に、〇〇委員も同じように「せめて中学生以上には聴いてはどうか」というふうに言っていたと思います。それも一つの方法かと思うのですが、ただ、実際のところ、子供が今通っている学校の統廃合についてどう思うかを回答できるかという点、なかなか難しいとは思いますが、そういった回答が可能なのかどうか、事務局で検討させていただけたらと思います。
委員	学校でも、子供たちには学校評価の中で子供たちの意見を聴いています。「この学校生活が楽しいか」という問いに対して、90～95%の子供たちは「現状に満足している」と答えます。アンケートを取っても、あえて大きな学校に行きたいと答える子供がいるのか疑問です。子供たちは本当に学校に満足していて、十分楽しい学校生活を送っているのか、(統廃合に回答することは)難しいかなと思います。
委員	就学前の保護者へのアンケートですが、小中学生の数の推移が記載されていますが、私でしたら自分の子供が通う校区の推移があれば良いと思います。
岩井課長	保育所や幼稚園に関しましては(園児の校区が)混在してる場

	<p>合があるので難しいと思って、あえてそこには載せていません。学校ごとの推移を作って、それを保育所や幼稚園で該当する校区分を個別に配っていただくことが可能であればできると思いますが、保育所等の現場が煩雑になるのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>〇〇だと保護者の方の就労の関係でいろいろな地域から(園児が)通っている場合もあるので、その辺は複雑ですね。しかし、(園児が)どこから通っているのかは把握していますので、おそらく〇〇でもできると思います。</p>
<p>岩井課長</p>	<p>ありがとうございます。この件は保育所の園長先生や保健福祉課にも相談して、できる限り委員の意見に添えるように頑張ってみます。</p>
<p>委員</p>	<p>この推移ですが、平成17年の数字はもう必要ないのではないかと思います。令和2年からの推移が良いと思います。先ほどの(校区ごとの)小学校(の推移)についても、例えば「令和2年の現在で〇〇小学校は〇〇人」のように参考的につければ、わざわざ小学校区ごとに別々のアンケート用紙を作らなくて良いかなと思います。</p>
<p>中村教育長</p>	<p>この平成17年(の数値)をつけたのは、様々な学校運営協議会に出向く前に教育委員会の中で話し合った中で、「前回、平成18年に統廃合の計画を作成する時点で、全体としてはどれぐらいの人数がいた中でこういうものを作りました」ということが実感として分かるかと考え、平成17年の数字も記載しています。それをどこまで見ていただくかは別として、スペースとしても十分入るので、記載できたらと思っています。それと、先ほど保育所に自分の子供さんが就学する予定の学校ごとの推計が欲しいという件については、実際に校区とは別の保育所に通っていて、様々な人間関係ができていますので、小学校も校区外で(通わせたい)という申請もたくさん出てきています。それを校区外通学の理由として認めているので、そういうことも含めて分ければ、かなり現実に即した感じでアンケートが取れるかとは思っています。実際にお渡しする分をいくつか用意して、自分の子供が行きそうな学校の方で見ていただけるようでしたらそれはそれで良いと思いますので、保健福祉課や保育所と十分相談させてもらったらと思います。</p>

<p>委員長</p>	<p>御意見はありませんか。なければ、保護者アンケートについてはこのような内容で実施させていただいてよろしいでしょうか。</p>
<p>委員全員</p>	<p>(了承)</p>
<p>委員長</p>	<p>続きまして、「(3) その他」に移ります。その他で、何かございませんか。委員の皆さんの現状での素直な御意見をお聞かせいただければと思います。〇〇委員、何かないでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>今日のところでは、特にありません。</p>
<p>委員長</p>	<p>〇〇委員、何か気づいたことはないでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>今日の会議では、特に気づいたことはないですけれど、これ(統廃合)すごく難しい問題だとは思いますが。僕は統廃合するだろうなとは思っているのですが、多分地域の方とか保護者とか町民全員がですね、やはりもっと未来のことを想像できるかどうかというところ(が大切)だと思います。ではその未来って何だろうというところを考えないといけないと思います。それが分かれば、最終的にどうなった方が良いのだろうというところにたどり着くのかなと思います。孫ができたり(する頃には)地元でいろいろな関わりのようなところがあって、地域はやはり衰退していくだろうなというところに対しては残念に思うかなという(気持ち)はあるかもしれません。将来、愛南町がより良い町になるために、皆がどうすれば良いのか考えないといけないかと思っています。こんなことを言うと偉そうですが、皆がそれぞれの気持ちを少し抑えて、町全体が良くなるところに向けて考えれば、答えが出るのかなと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>皆それぞれいろいろな問題を抱えていると思います。私らの経験ですけれど、統廃合の関係が直接自分たちの身にかかってきたときは地域で考え、保護者の方も考え、子供のことも考えてやり、いろいろと多方面から考えて、何とか存続したいという保護者もたくさんいました。そんな中で、どうすればまとまっていくのか、結局答えがなかなか出ませんでした。最終的には保護者の意見を尊重して、残念ながら平成〇〇年に〇〇小学</p>

	<p>校は閉校ということになりました。その場になってみないと、なかなか保護者も実感が湧かないと思います。学校教育課の方には大変申し難いことですが、とにかく保護者が一枚岩にならないと(学校は)残らないということは、地域としては言い続けてきました。しかし、(新入生が)2年間空いて一人入り、また2年空いて後は(入学するかどうか)分からないとなったときに、私たち(地域)としては、心ばかりの支援しかできませんでした。</p> <p>そうなったときには、(地域の)皆さんも折れる必要があるかなと思います。自分たちの思いだけではなかなか事は進まないなと実感しました。今できることは、地域の皆が助け合って地域を盛り上げていくことなのかなと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば児童が一人(の学校)で、保護者がどうしても統廃合は反対だという場合に、統廃合はできるのですか。</p>
<p>中村教育長</p>	<p>当然そういうことも考えられるとは思いますが。どうしても(反対だ)という方がいないとは限りませんので、こちらとしてできることは、やはり「子供の成長にとってこういうことが望ましいのではないですか」ということを粘り強く話をしていくことだと思います。おそらく今の保護者の世代、そしておじいちゃんやおばあちゃんの代でも、同級生が一人もいないとか、自分の(学年の)上下が全然いないとか、そういう中で学んだ経験はないのではと思います。同級生にはある程度的人数がいて、男女もいて、そういう中でいろいろ切磋琢磨しながら育っていった、うまく友達とやり取りができるようになっていったと思いますので、そういうことも含めて話はしていこうと思います。当然、一人になると学校の体制も非常に厳しい体制でしかできませんので、その辺も合わせてお伝えしていきます。現在、愛南町にはそういった学校はありません。離島などでしたらあり得ますが。例えば小学校で一人、中学校になっても一人のままで育ってきた子供が、突然大勢のいろいろな仲間とやり取りをする環境に入っていけるのかを考えると、子供の将来のことも考えて話し合いをしていくしかないと思います。現在の考え方として、一人でも反対があったら統廃合できないというふうには考えていません。それでいくと、統廃合はまずそこ(保護者の意見)から始めないとういう会を持つこと自体に意味がなくなります。一番良いのは保護者同士でも話し合いをしていただくこ</p>

	<p>とですが、やはりある程度の人数が子供たちの将来のために必要だという方向になれば、学校や教育委員会の方からもその保護者の皆さんとの話し合いを持ちながら進めていくということになるかと思います。最後の一人が反対するために一切統合は進めないということではありません。</p>
委員長	<p>〇〇委員、何かないでしょうか。</p>
委員	<p>1回目のときにも申しましたけれども、やはり地域はもう二の次で、子供と保護者を優先すべきだと思います。</p>
委員長	<p>〇〇委員、何かありませんか。</p>
委員	<p>統廃合は仕方ないのかもしれませんが、統合した後、やはり学校がなくなるとその地域には子供がいなくなったりして、(それまでできていた)行事なども(実施が)難しくなるので、(行事を)地域の方で残してやれるような環境の整備をしてあげたら、学校がなくなっても地域が寂れずにすむのではないかと思います。そういうことも視野に入れて考えていけば良いのではないかと思います。</p>
中村教育長	<p>ありがとうございます。その分は十分考えたいと思います。最終的に統廃合に進むということになれば、特に廃校になる地域に関してどういうことができるのか、十分検討したいと思います。</p>
委員	<p>子供の推移に関してですが、多分、保護者はここまで減るとは思っていないと思います。(子供が)減ることは分かっていますが、この資料を見ると大体8年ずつで3分の1ほど減っていますが、令和16年になったら更にこの3分の1になるのではないかと思います。(資料にある)令和8年までは今出生している子供ですから計算しやすいけれど、令和16年、令和20年くらいの推移も入れておけば、(いずれ)小学校は300人を下回る、中学校は150~200人を下回るなど分かるので、保護者も少しは考えてくれるようになるのではないかなと思います。</p>
中村教育長	<p>統計の手法で10年後や20年後の見込数は出せますが、非常にアバウトな数字になりますし、その数字をそのまま示してし</p>

	<p>まうと本当にこのとおりになるのかと(誤認させ)、数字も一人歩きする可能性がありますので、お示しするかどうかについては十分検討させていただきます。教育委員会サイドとしては、(子供の減少は)できればそうならないように、産業の活性化も含めて様々な町としての支援をしながらがんばっていけるようになれば良いなと思っています。</p>
委員長	<p>ほかにないでしょうか。〇〇委員、何かありませんか。</p>
委員	<p>児童生徒のことを考えるとやはりその学校が魅力的な楽しいものかどうかが1番だと考えます。(統合前には)いろいろな議論をされたと思うのですが、実際(閉校区から)通う子供に声をかけると、「楽しい。いろいろな友達ができて楽しい」という声はよく聞きました。(統廃合の検討には)いろいろな問題があると思いますが、現在、気になっていることは生徒たちの流出です。学校が極限状態まで(子供の数が減少して)いったとき、子供たちや親がどう考えるかなと思うと、やはり他所に子供を通わせようとする方がいることが結構大きな問題になりつつあるのではないかと思います。理想かもしれませんが、何か魅力のある学校、むしろ他所から「ここに行ってみたい」と思ってもらえるくらいの学校であるべきかなと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。そのほかに御意見などはないでしょうか。</p>
委員全員	<p>(意見なし)</p>
委員長	<p>今回の貴重な御意見は今後の参考とさせていただきます。本当にありがとうございました。それでは、以上で全ての協議事項が終わりましたので、進行を事務局にお返しします。</p>
近田課長補佐	<p>それでは、閉会あいさつを副委員長が申し上げます。</p>
副委員長	<p>(閉会あいさつ)</p>
近田課長補佐	<p>副委員長、ありがとうございました。以上をもちまして第3回愛南町学校統廃合検討委員会を閉会します。本日は大変お疲れさまでした。</p>

